

[未来への一投]

パラ陸上 やり投げ

や ま ざ き あ き ひ ろ

山崎 晃裕 選手

To the top of the world

Akihiro Yamazaki

先天性の右手首欠損障害を持つ。パラ陸上で「やり投げ」を始め、5か月後には28年ぶりに日本記録を更新。現在も自身の記録を更新し続け、世界で活躍する鶴ヶ島出身の注目のアスリート。東京パラリンピックでのメダル獲得と鶴ヶ島への想いを聞く。

野球一筋

小学3年生から鶴ヶ島エンゼルスで野球を始めました。コーチから片手のみでの捕球と送球の方法やバッティングを教わり、いろいろな工夫しながら中学・高校まで健常者の仲間と一緒にプレーしてきました。負けず嫌いの性格なので、誰にも負けたくないという思いは、ずっと持ち続けていました。

大学進学後に「日本代表のユニホームが着たい」と思い、身体障害者野球に挑戦することにしました。光栄にも日本代表に選んでいただき、平成26年に行われた身体障害者の世界野球大会(WBC)で準優勝することができました。

決勝戦を終えて感じたことは、負けて悔しかったこともありましたが、それとともに「注目度の低さ」に驚きました。日本代表として戦っても、皆さんに知ってもらえず、メディアの露出も少なく、健常者の方のWBCとはまったく違うものでした。

新たな挑戦

アスリートとして、より大きくなりたいたいという思いがあったので、注目度の高いパラ陸上に挑戦することにしました。できるだけ多くの方に応援してもらえ、ような舞台に行きたいという思いが一番大きかったですね。様々な競技がありま

すが、野球で培った肩を生かせると考え、「やり投げ」を選択しました。

デビュー戦では、54m48を投げて日本新記録を、昨年5月に行われたワールドパラアスレティクスグランプリ北京大会では、60m65の自己ベスト(日本新記録)を出すことができ、優勝することができました。

東京オリンピック・パラリンピックもあり、今までよりもパラスポーツはメディアの扱いも大きく、多くの方に知ってもらえる機会が増えました。

人を勇気づけられたり、夢を与えられる存在になりたいと思っているのもっと活躍して自分をアピールしていかなければなりません。

金メダルを取る

東京パラリンピックで金メダルを取ることが、今の最大の目標です。あと約2年、今に集中して全力で取り組んでいき





撮影：日本パラ陸上競技連盟

高校生まで健常者と野球をし障害者野球へ。身体障害者野球のWBCで日本代表となり準優勝に貢献、優秀選手賞を受賞。やり投げに転向し、世界ランキング4位の日本を代表する若きアスリート。鶴ヶ島第一小学校、西中学校出身。順天堂大学さくらキャンパス職員、23歳、167cm、78kg

ます。

また、自分が所属するF46クラス（上肢欠損など）の世界記録は64m11です。その記録を更新し、パラの選手としてではなく、一人のやり投げ選手として、どこまで成長できるか挑戦します。

そのために、投げ込み、ウェイトトレーニングの他に、走力や跳躍力などの体力と技術、知識などの総合力を高めていく意識を大切にしています。

鶴ヶ島への想い

野球をやり始めてから出会った多くの方に、頑張っているなと思ってもらいたいです。

また、今現役で野球などを頑張っている子どもたちに、自分の生き方と活躍を見てもらい、何か希望を与えられたらいいなと思います。子どもたちから、あんな先輩がいたんだと思ってもらえたら、これ以上嬉しいことはありません。

私と同じような障害を持つ方も、いろいろなスポーツに挑戦するという選択肢を捨てないで「やりたい」という気持ちを大切にしたいです。片腕で生まれた私も、ただ純粹に「やりたい」という気持ちで野球を始めて今があるので。出来ないからと、最初から諦めないでほしいです。

自分の地元である鶴ヶ島をもっとアピールできるような選手になりたいです。そのような存在になることで、皆さんに恩返しができると思います。

鶴ヶ島を盛り上げたいという気持ちは、誰よりも強く持っていますから。